

# 平成 29 年度兵庫県青少年赤十字研究会報告書



# 目 次

1. 兵庫県青少年赤十字研究会開催要項	・ ・ ・ ・ ・	2
2. プログラム	・ ・ ・ ・ ・	3
3. 青少年赤十字研究推進校研究報告（要旨と発表データ）		
(1)芦屋市立精道小学校	・ ・ ・ ・ ・	5
(2)宝塚市立未成小学校	・ ・ ・ ・ ・	8
(3)西脇市立黒田庄中学校	・ ・ ・ ・ ・	11
(4)猪名川町立六瀬中学校	・ ・ ・ ・ ・	14
(5)兵庫県立鳴尾高等学校	・ ・ ・ ・ ・	20
(6)兵庫県立柏原高等学校	・ ・ ・ ・ ・	25
4. 青少年赤十字研究推進校設置要項	・ ・ ・ ・ ・	33
5. 青少年赤十字研究推進校一覧	・ ・ ・ ・ ・	34
6. 研究会における発表の風景	・ ・ ・ ・ ・	41

## 平成 29 年度 兵庫県青少年赤十字研究会 開催要項

- 1 趣 旨 青少年赤十字活動を学校生活において実践することにより、児童・生徒の自主性と指導性を養い、世界の平和と福祉に貢献できる青少年育成を目指す。  
日本赤十字社兵庫県支部では青少年赤十字研究推進校を設け、研究を委嘱しており、本研究会は研究推進校が実践している研究の成果を発表・共有することにより、各学校での青少年赤十字活動の充実と活性化を図ることを目的とする。
- 2 日 時 平成30年1月28日(日) 13:00~15:30
- 3 会 場 日本赤十字社兵庫県支部 7階大会議室  
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-4-5
- 4 主 催 兵庫県青少年赤十字協議会  
兵庫県高等学校青少年赤十字協議会  
兵庫県中学校青少年赤十字協議会  
兵庫県小学校青少年赤十字協議会  
日本赤十字社兵庫県支部
- 5 後 援 兵庫県教育委員会
- 6 研究発表校 芦屋市立精道小学校  
宝塚市立未成小学校  
西脇市立黒田庄中学校  
猪名川町立六瀬中学校  
兵庫県立鳴尾高等学校  
兵庫県立柏原高等学校

## プログラム

【敬称略】

### (1) 開会（13：00～13：20）

開会挨拶 兵庫県青少年赤十字協議会 会長 中野 憲二

日本赤十字社兵庫県支部 事務局次長 上り口 豊

来賓挨拶 兵庫県教育委員会事務局 高校教育課 指導主事 中井 里絵

### (2) 青少年赤十字研究推進校活動報告、質疑応答（13：20～15：15）【敬称略】

#### ① 芦屋市立精道小学校

研究テーマ：阪神淡路大震災を語り継ぐ

発表者：塩田 万里菜、田中 柊沙、有本 拓実、橋本 心美、高見 里奈（教諭）

#### ② 宝塚市立末成小学校

研究テーマ：学校・家庭・地域の連携を基盤にした、安心・安全、みんなに優しい  
まちづくり

発表者：柴田 芳宏（教頭）

#### ③ 西脇市立黒田庄中学校

研究テーマ：「健やかでうるわしく 和やかでよく働く 自力で成し遂げる」生徒の育成

発表者：和田 祥子（教諭）

#### ④ 猪名川町立六瀬中学校

研究テーマ：「共創的な対話が生み出す、つながる地域、そして、みんなの地球」

～ふるさとから学び、ふるさとに貢献し、国際社会で活躍できる人材を育成する～

発表者：井上 杏樹、内田 哲平、井上 蘭

#### ⑤ 兵庫県立鳴尾高等学校

研究テーマ：奉仕・国際理解 ～地域・世界の一員として～

発表者：開田 樹、福本 優一、義野 鈴鹿、児下 千秋

⑥兵庫県立柏原高等学校

研究テーマ：①丹波市在住のニューカマー外国人の日本人社会への親近感・信頼感を高める活動

②市民の防災意識を向上させる活動

③柏原市街地の観光バリアフリーマップの作成

発表者：根ヶ山 愛未、堀 真子、足立 美優、吉見 友里恵、石田 彩、久保 哲成（主幹教諭）

(3) 講評（15：20～15：25）

赤十字活動指導講師/兵庫県青少年赤十字賛助奉仕団委員長 齋藤 武夫

(4) 閉会/事務連絡（15：25～15：30）

閉会挨拶 日本赤十字社兵庫県支部 事業部長 逢坂 嘉弘

## 阪神淡路大震災を語り継ぐ

### 芦屋市立精道小学校

今から 23 年前、1995 年 1 月 17 日午前 5 時 46 分マグニチュード 7. 2 の兵庫県南部地震が起こり、阪神淡路大震災になりました。私たちの芦屋市立精道小学校校区は 7 割が全半壊という被害を受け、その地震により、8 人の子どもと 6 人の保護者が亡くなりました。また、当時はまだ小さく、精道小学校に入学してくるはずだった 15 人の子どもも亡くなりました。精道小学校では、この日を忘れないために、毎年 12 月には全校生による語り継ぐ会、そして 1 月 17 日には追悼式を行っています。

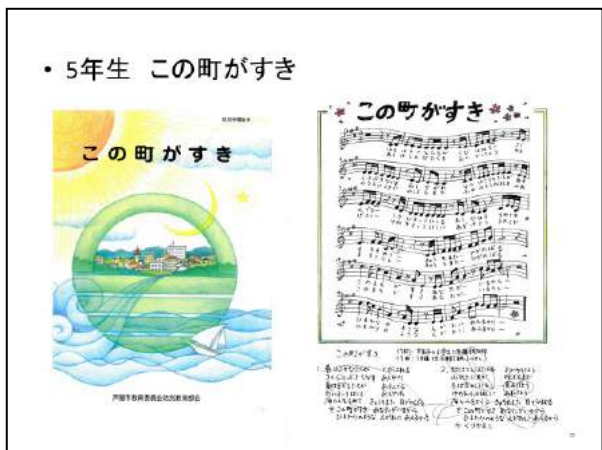
語り継ぐ会では、各学年が 1 年間取り組んだ防災学習について発表し合います。1 年生は、毎年みりちゃんの朝顔の種を育てます。みりちゃんとは、震災で亡くなった当時 5 歳の女の子です。震災後、みりちゃんの育てていた朝顔の鉢が見つかり、そこからとれた朝顔の種を毎年 1 年生が育てています。2 年生は、ひまわりおじさんの話を紹介しました。ひまわりおじさんとは、精道小学校のみんなを元気にするため、震災の次の年に運動場にひまわりの種を植えてくれたおじさんです。毎年 2 年生がその種を植えて育てています。夏には大きなひまわりが咲き、そこからとれた種を 1 年生に送りました。3 年生は、精道小学校の校庭にある、祈りの碑を紹介しました。震災から 1 年後、亡くなった方たちにできることはないかと話し合い、祈りの碑をたてました。祈りの碑の裏には亡くなった 8 人の子どもの名前が刻まれています。つくられた経緯や、込められた想いを全校生に伝えました。4 年生は、希望りんごについて紹介しました。希望りんごとは、阪神淡路大震災からの復興を願って 2008 年 1 月 17 日に植樹されたりんごの木のことです。亡くなった子どもの数にあわせて 8 本植えました。4 年生は 1 年を通してりんごの木を観察したことや、今は 6 本になってしまったりんごの木を挿し木で増やす計画を発表しました。5 年生は、震災絵本「この町がすき」を読み、学習したことを発表しました。この本は、芦屋市の先生たちが作った学習絵本です。芦屋に引っ越してきたあやちゃんのお話や、阪神淡路大震災の当時の様子が詳しく書かれています。芦屋で歌われる「この町がすき」のできた経緯も学びました。そして、私たち 6 年生は、精道小学校で亡くなった 8 人について調べ、発表しました。亡くなった 8 人がどんな人だったのか、遺族の方や当時の担任の先生、または同級生の方から話を聞きまとめました。生きたくても生きられなかった 8 人の子どもたちのことを忘れないように、心をこめて発表しました。また、6 年生は、全校生に語り継ぐ会の後、5 年生に対する語り継ぐ会を行います。今まで学習してきたことをより詳しく伝えて、最高学年になる 5 年生に託します。

今年も 1 月 17 日に追悼式を行いました。毎年校庭の祈りの碑の前で行っているのですが、今年はいいにくの雨だったため、体育館で行いました。追悼式では、校長先生や遺族の方が追悼の辞を述べられ、児童の代表による話があり、ペア折鶴で作った折鶴とともに、手作りの献花を全校生一人一人が供えます。追悼式では、命の大切さ、語り継いでいくことの大切さを改めて感じました。



### ねらい

- 阪神淡路大震災についての学習を全校生で取り組むことで、いつまでも震災を忘れない意識を持つ。
- 次の大震災に備えるための心構えを学ぶ。



• 6年生 なくなった8人の子どもたち



• ペア折鶴の様子



ペアの学年で一緒につるを折ります。  
8人に対する折りのメッセージもつるに添えています。

• 5年生に語り継ぐ様子



亡くなった8人のことや、当時の様子など、調べたことを6年生が5年生に伝えます。

追悼式



祈りを届ける会



ご清聴ありがとうございました



学校・家庭・地域の連携を基盤にした  
安心・安全、みんなに優しいまちづくり

宝塚市立末成小学校

《活動の趣旨》

本校では、研究テーマに基づき、次の三つを活動の柱として取り組んだ。三つの活動は、A 福祉活動、B 環境奉仕活動、C 防災に関する活動に分かれている。それぞれの活動の具体は次の通りである。

A 福祉活動に関する活動

- ① アイマスク・車いす体験学習、車いすの方の話と給食交流を年間三回実施した。
- ② 地域の高齢者との交流活動として、野菜や花を育てる活動と昔遊びを行っている。野菜は、1年生から3年生までの子どもたちとサツマイモや黒枝豆、たまねぎ作りを行っている。また、1年生は、昔の遊びとして、けん玉、おはじき、コマ回し、あやとりなどを教えていただいた。また、学校の花壇に花を植えて育てる活動も行った。

B 環境奉仕活動

仁川の水生物探しをして、指標生物を見つけ、川の水質を調べた。また、ドングリのできる木を探し、飾りを作ったり、武庫川の野鳥を観察したりした。このような活動を通して環境の大切さを感じることで環境を守る活動へとつないでいく。

C 防災に関する活動

避難訓練・引き渡し訓練、地域防災訓練を実施した。

- ① 避難訓練は、年間三回を実施した。1回目は、火災発生を想定した避難訓練、2回目は、大雨洪水警報から武庫川氾濫を想定した避難と引き渡し訓練、3回目は、地震、津波を想定した避難訓練を実施した。
- ② 地域防災訓練

本校3年生が、保護者や地域の方々と一緒に防災訓練を行うものである。内容は、ア 避難誘導訓練、救急救命訓練、イ ダンボールベット組み立て訓練、ウ 応急担架作り訓練、エ 消火訓練、オ 炊き出し訓練に分かれている。子どもたちは、見学するのではなく、地域の防災リーダーや宝塚消防署員から説明を受け、実際に訓練を行う。このことにより、自分たちの身は自分で守るという意識を高めること、災害時にも慌てないで対応する気持ちが育まれると考えている。

成果と課題

福祉活動、環境奉仕活動、防災に関する活動について、それぞれ複数回の活動を実施し、学びとして深まりが見られた。活動には、思ったよりも時間がかかるので余裕を持って年間計画を立てておく必要がある。

青少年赤十字研究推進  
平成29年度の取り組み  
宝塚市立末成小学校



研究テーマ

「学校、家庭、地域の連携を基盤にした 安心、安全、みんなに優しいまちづくり」

三つの活動

- ▶ A 福祉に関する活動
  - ▶ 障がい者福祉、
  - ▶ 高齢者福祉に関する活動
- ▶ B 環境奉仕に関する活動
- ▶ C 防災に関する活動

A 福祉活動の取り組み

- ▶ ☆アイマスク・車いす学習
- ▶ ☆高齢者交流
  - ▶ 野菜や花、昔遊び

A 福祉活動の取り組み

- ▶①高齢者との交流 野菜・花づくり



A 福祉学習の取り組み

- ②高齢者との交流 昔遊び



B 環境奉仕活動

- ▶ 自然の生き物を観察
- ↓
- ▶ 環境の大切さを知る
- ↓
- ▶ 環境を守る活動



C 避難訓練・地域防災訓練

- ①避難誘導訓練  
地震 → 運動場避難



②救急救命訓練  
AED  
心臓マッサージ



③段ボールベット組み立て訓練



#### ④ 応急担架作り



#### ⑤ 消火訓練と消防車見学

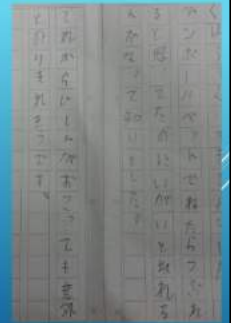


#### ⑥ 炊き出し訓練 豚汁 炊き込みご飯



#### 子どもの感想

- ▶ 段ボールベッド作り
- ▶ ダンボールベッドでねたらつぶれると思っていたのにいがいとねれるんだなって知りました。これからじしんがおこっても意外とのりきれそうです。



「健やかでうるわしく 和やかでよく働く 自力で成しとげる」  
を目標とした生徒の育成

西脇市立黒田庄中学校

1) 活動の要旨

本校ではビギン部というボランティア団体が活動している。現在、活動頻度は月1～2回程度。部長と副部長を中心に、行事ごとに呼びかけをし、参加者を募っている。今年度は総計150名以上の生徒が参加した。(中には何度も参加している生徒もいる。)部活を引退した3年生が活動のメインとなるが、部活の合間を縫って1・2年生も可能な限り参加している。部活単位で参加している部もあり、チームならではの協力体制で力を発揮している。

2) 具体的な活動内容

実施時期	活動の名称	活動内容
6月	①グリーンカーテン ②Clean our school	①毎年配布して頂いているゴーヤの種を使い、省エネ活動の一環としてグリーンカーテン(ゴーヤ)の苗植えを行った。 ②普段清掃の行き届いていない場所を清掃する活動を行った。
7月	Clean our school	普段清掃の行き届いていない場所を清掃する活動を行った。
8月	黒っこ祭り	『黒っこ祭り』で様々なブースに入り、活動のボランティアを行った。
9月	①グリーンカーテンの撤去 ②熊本地震義援募金	①5月に植えたグリーンカーテン(ゴーヤ)の撤去を行った。 ②体育祭で熊本地震義援金の呼びかけを行った。
10月	①向陽苑運動会 ②ハボタン植え	①特別養護老人施設『向陽苑』で行われた運動会に補助スタッフとして参加した。 ②校舎前にあるプランターにハボタンを植えた。
11月	大山病院フェスタボランティア	屋台やバザーでの調理・販売ボランティアに参加した。
12月	西脇子午線マラソン給水係ボランティア	黒田庄校区内とゴール地点の給水ポイントにて、給水ボランティアを行った。

3) 成果と課題

本年度も生徒会を中心に、福祉活動において積極的に取り組む生徒の姿がうかがえた。

ビギンの活動を通して、「ありがとう」と感謝の言葉をかけられることに喜びを感じ、多くの生徒が「もっと周囲の人の役に立つ活動をしたい」と感じていた。

今後は、子どもたちがもっと「愛着」や「誇り」を持って地域に貢献できるよう、さらに人権感覚を磨き、社会に出たときには、小中で連携して取り組んできたことを生かし、身近な人の気持ちをくみ取れるようになることも必要だと考える。

一部だけの取り組みにせず、学校全体、地域全体に視野を広げて取り組んだりするなど、これからの福祉教育について、発展的に考える機会を持てるよう検討を図りたい。



### 1. 黒田庄中学校の紹介

1年生55名、2年生56名、3年生66名、  
計177名の生徒が生活。 全学年6クラス。

### 2 ビギンの歴史

「Let's begin for yourself .」  
“誰かのために自分から始めよう、  
自分のためにも始めよう”

- ・結成は25年前の平成5年。
- ・当時の生徒会の福祉部から独立した、ボランティアグループ。
- ・本年度で設立23年目。

### 3 活動までの流れ

- 1 外部の団体から依頼を受けるもの。  
・本校独自の奉仕活動。  
↓
- 2 全校集会やビギン便りなどで呼びかけ。  
↓
- 3 **自己選択・自己判断・自己決定**  
⇒自主参加

部活動を引退した3年生が主な参加者。  
部活動の一環として部活単位での参加もあり。

### 4 活動の記録

★グリーンカーテン（ゴーヤ）

### ★ 黒っこ祭り

### ★健康ふれあいフェスタ



### 4. ビギンの成果と展望

平成24年 2月 北播磨青少年本部の部  
3月 村尾育英会賞  
11月 ひょうご県民ボランティア活動賞

参加者...  
約150名!

- ・相手と同じ目線で交流するよう心掛ける
- ・積極的にコミュニケーションをとる
- ⇒相手も自分も笑顔
- ・勇気を出して声をかける
- ・成功したときの達成感
- ⇒自信
- ・普段関わらない人との交流
- ⇒新しい価値観との出会い

今まで... 外部の団体から依頼を受けて活動に参加  
↓  
これから...  
**自分たちで企画・募集・実施**  
**自分たちからもっと積極的に動く**



「共創的な対話が生みだす、つながる地域、そしてみんなの地球」  
～ふるさとから学び、ふるさとに貢献し、国際社会で活躍する人材を育成する～

猪名川町立六瀬中学校

《活動の要旨》

本校は、（１）循環型社会の命の営みを体験から学び、命のつながりを感じ、慈しむ心を育てる。（２）生物多様性の歴史を科学的に理解し、未来の地球への責任を果たす人間を育てる。

（３）グローバリズムによって広がる格差を是正し、競争や対立ではなく、対話の力によって、認め合い、共に創造する、あたらしい持続可能な社会を作り出す子どもたちを育てる。という３つの青少年赤十字研究推進目標を掲げている。

その目標を達成するために、青少年赤十字の「世界の平和と人類の福祉に貢献できる青少年の育成」の理念に立って、①健康安全、②奉仕、③国際理解・親善の分野に分けて、活動を深めていった。また、「気づき、考え、行動する」という過程を重視した取り組みを進めている。

①健康安全の分野では、「里山生き物観察と里山整備活動」、「ナラ枯れ撲滅運動（カシナガトラップ）」、「猪名川の生き物観察と河川の清掃」、「救急救命講習」、「交通安全教室」、「防災訓練」、「防犯訓練」を行った。「里山生き物観察と里山整備活動」では、里山の生物多様性を学び、様々な命と出会い、自然保護の考え方や方法を学ぶことができた。「猪名川の生き物観察と河川の清掃」では、猪名川の水生生物調査を行い、地域の人々と共に猪名川に住むかけがえのない生き物の命を共有できた。また、アユが猪名川に戻ってくる、という夢の実現に向けて地域に呼びかける活動を行った。

「防災訓練」では、火災・地震に対する安全確保、避難活動を学んだ。特に、地震避難訓練の際は「防災ワークショップ」を行い、「避難所運営ゲーム HUG」を実施し、より効果的な防災教育を行うことができた。

②奉仕の分野では、「校区の里山と猪名川の環境整備活動」、「福祉体験」、「福祉施設訪問」、「募金活動」を行った。「福祉体験」は、昨年度と同様に１年生は高齢者体験、２年生は認知症サポーター養成講座、３年生は手話講座を行った。高齢者や障がいを持った人と共に支え合って生きていく大切さを、体験を通して感じさせた。「募金活動」は、「北九州豪雨災害義援金」、「NHK 海外助け合いキャンペーン」、「赤い羽根共同募金」等を行った。募金活動から、募金がどのように使われるのかを理解し、社会に働きかける力を育成させた。

③国際理解・親善の分野では、「平和学習の推進」、「人権学習の推進」、「国際交流」、「国際人道法の学習」を行った。「平和学習の推進」は、３年生の修学旅行で平和学習に取り組んだ。第二次世界大戦の地上戦で多くの犠牲者を出した沖縄へ行き、戦争について考え、平和を守る行動できる人間の育成、世界平和に貢献できる人間の育成に力を入れた。また、基地問題や不発弾等についてグループに分かれて調べ、考察し、討論会を行った。討論をする中で、「２０年後・３０年後はこうなっていくべきだ」と提案し、未来を担う人材の一人としての自覚を深めていった。

共創的な対話が生みだす、  
つながる地域、  
そしてみんなの地球  
～ふるさとから学び、ふるさとに貢献し、  
国際社会で活躍する人材を育成する～

平成29年度青少年赤十字活動推進校  
兵庫県川辺郡播磨川町立六瀬中学校  
生徒会役員 祐谷 慶次郎・井上 杏樹・飯田 昂平・内田 悠平・井上 蘭

I はじめに



- ・創立71周年
- ・現在全校生徒74名
- ・六瀬中学校スローガン  
「自分たちの学校は  
自分たちの手で」

活動内容

- ①各学年の取り組み
- ②ふるさとクラブ・生徒会の活動
- ③福祉活動
- ④防災教育

①各学年の取り組み

1年生一里山学習一

4月25日 講師・森林インストラクター 木下 武紀さん

「ふるさとづくり」と「仲間づくり」をテーマに、「新原めぐみの森」に行きました。森林インストラクターの木下先生に教えていただき、山奥の針葉樹の植林よりもはるかに里山の方が生物多様性が豊かだということがわかりました。里山は牛、畑にありませう。石炭石油の時代の到来により、里山は荒廃が進み、生物多様性が失われ、絶滅種も増えています。里山について学習し、自然の素晴らしさ、他生物との共生の楽しさ、大切さを感じました。



葉っぱではがきを出そう。(多羅葉の葉)

1年生一稲作体験一

指導ボランティア・PTA会長 山下 修さん

私たちの主食である米。その米がどのようにして作られているのか、「食へることの大切さ」を学ぶとともに、稲作体験を通して米への関心が高まりました。稲刈りだけでなく、代播きから体験させていただき、生産者がどれだけ大変な思いをして作っているかがわかりました。水田を作る難しさ、水田の生物多様性、イネの生産性、害獣についてなどこれからの農業問題についても考えを深めました。



代播き

田植え



草とり





稲刈り



脱穀



### 2年生一河川清掃一

講師：河川レンジャー 奥村さん 六歳ふるさとの会のみなさん

トライやる・ウィークでは、いくつかの事業所のグループで地域ボランティアとして河川清掃を行いました。ビニール、ゴム、金属等が落ちており、回収袋がいっぱいになるほど拾いました。また、生物調査も行い、猪名川の生態系を学習することができました。



### 2年生一アユを考える会一

六歳中学校区にある2つの小学校と1つの幼稚園と合同で、「アユを考える会」を開催しました。この会では、人とふれ合う楽しさや大切さも学ぶことができました。猪名川は昔、アユが遡上していました。しかし、今は戻ってきません。昔の豊かな自然を取り戻したいという強い思いがあり、私たちはアユが再び遡上する川にするための目標を「アユ宣言」として、各学校ごとに発表しあい交流しました。



活動の様子



### 3年生一平和学習一

3年生は、修学旅行で沖縄に行きました。沖縄の素晴らしい自然や文化を楽しむだけでなく、悲惨な戦争の歴史や今も重要な課題であるアメリカの基地問題などについて学習し、考えを深めました。また、沖縄についての調べ学習では、沖縄の基地問題や環境問題などについての課題を考察するなどさらに発展させて取り組みました。



ひめゆり平和資料館



## ②ふるさとクラブ・生徒会の活動

### ふるさとクラブ

ふるさとクラブとは…学校の授業で取り組んでいること以外のESD活動を行っているクラブです。ふるさとづくりの活動に参加したい人は誰でも入会できます。今までの主な活動は、猪名川をきれいにする清掃活動・猪名川の生物調査・尼崎市のネイチャークラブとの合同観察会などです。



### カシナガトラップ





### ③福祉活動

#### 福祉講演会—ミナマタを考える—



#### 福祉講演会



#### 福祉活動—1年・高齢者体験—

種名川町社会福祉協議会の指導員にワークショップを聞いていただきました。

高齢者になったらどうなる？

- 1 耳が遠くなる体験
- 2 視野が狭くなる体験
- 3 腰が曲がってしまう体験

お年寄りになったら、感じられる体の感じを実際に体験し、どんな手助けが必要かを考えました。

これからお年寄りのみなさんが元気になる社会をみんなで創っていききたいと思いました。



#### 福祉活動—2年・認知症サポーター徘徊講座—



#### 福祉活動—3年・手話講座—



### ④防災教育

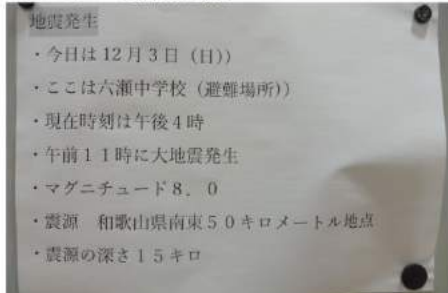
#### 防災教育

1月17日、避難訓練と共に震災追悼式・防災ワークショップを行いました。阪神・淡路大震災の教訓を活かされるよう、防災について学びました。校長先生の被災されたときの体験を聞いたり、青少年赤十字防災教育プログラムのDVDを見ました。いつ地震が来ても冷静かつ安全に行動できるよう常に防災意識を持つことが大切なのだと感じました。



校長先生の講話

#### 防災ワークショップ—避難所運営ゲームHUG—



#### ライフライン

- ・電気 停電している。
- ・ガス 遮断している。
- ・水道 断水
- ・電話 ときどき通じる。
- ・メール 遅れて届く。
- ・下水道 不明

みなさんの立場

- ・避難所となっている中学校の職員で、避難者を体育館や教室に振り分け、避難所を適切に運営していかなければならない立場にある。



おわりに

ご清聴ありがとうございました

猪名川町立六瀬中学校

奉仕・国際理解  
～地域・世界の一員として～

兵庫県立鳴尾高等学校

《活動の要旨》

A 奉仕活動に関する活動

- ・ 鳴高音楽祭
- ・ 地域の方々との交流（地域ボランティア）
  - ① 地域の方々との交流
    - 新春のつどい（学校近隣公民館において開催）
    - ふれあいコンサート（老人ホームにおいて開催）
  - ② 幼稚園・保育所との交流（鳴尾北幼稚園・学文殿保育所）
  - ③ 校外清掃
  - ④ 地域ふれあいフェスティバル（学文殿中学校において開催）
- ・ 神戸マラソンボランティア

B 防災に関する活動

- ・ A E D 講習
- ・ 災害看護についての講演会（D M A T 隊員による講演）
- ・ 看護体験

C 社会福祉施設における活動

- ・ 老人ホーム訪問（シルバーコースト甲子園）

D 生き方を考える活動

- ・ 障害者の方による講演会
- ・ 聴覚障害者の方との交流

E 国際理解に関する活動

- ・ 英国研修旅行（国際文化情報学科）
- ・ オーストラリア語学研修
- ・ 西オーストラリア州イトンコミュニティカレッジ（姉妹校）との交流



教育目標

- ・自己に打ち克つ厳しさと豊かな創造性を培い、広い視野に立つ教養豊かな人材を育成する。
- ・生涯を通じて学ぶことを楽しみ、自己を教育し続ける強い意志を持ち、21世紀に生きる人材を育成する。
- ・他を思いやる心の豊かさを持ち、国際性豊かな人材を育成する。



校訓

鳴尾高校の研究テーマ

奉仕・国際理解

～地域・世界の一員として～

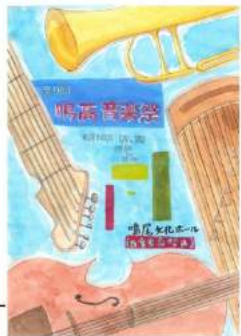
豊かな心の育成と奉仕の心

1. 鳴高音楽祭
2. 地域の方々との交流
3. 校外清掃
4. 本校総合人間類型について
5. 国際文化情報学科について

1. 鳴高音楽祭



本校美術部生徒  
作成のポスター



箏曲部(そうきょくぶ)



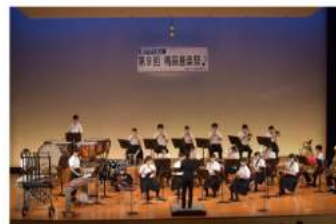
ストリング・オーケストラ部

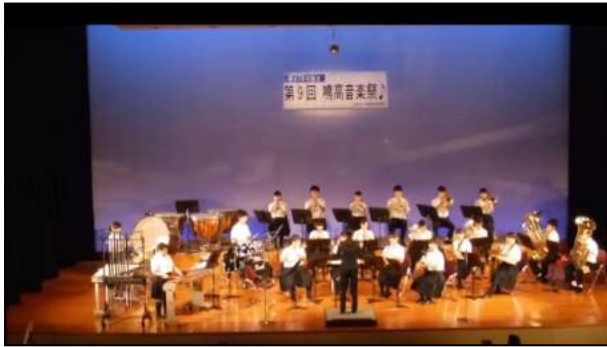


軽音楽部



吹奏楽部





2. 地域の方々との交流

新春のつどい

ふれあいコンサート

総合人間類型 体験学習 (学文殿保育所)

本校グラウンドでの風揚げ

総合人間類型 体験学習 (シルバーコースト甲子園)



3 校外清掃

#### 4 総合人間類型について



#### 基礎講座（教育・看護・福祉）



#### 手話講座 手話パフォーマンス甲子園



#### 神戸マラソンボランティア



#### 神戸マラソンボランティア



#### 神戸マラソンボランティア



#### 神戸マラソンボランティア



#### 5 国際文化情報学科 について



#### 大英博物館 と リーズ城



#### ホームステイ





鳴尾高校の研究テーマ

奉仕・国際理解

～地域・世界の一員として～

ご清聴ありがとうございました

兵庫県立鳴尾高等学校

生徒会

開田・義野・福本・児下

## 丹波市在住のニューカマー外国人の日本人社会への親近感・信頼感を高める活動／ 市民の防災意識を向上させる活動／柏原市街地の観光バリアフリーマップの作成

兵庫県立柏原高等学校  
インターアクトクラブ

### 1 丹波市在住のニューカマー外国人の日本人社会への親近感・信頼感を高める活動

#### 1) 平成 28 年度までの実績

平成 25～27 年度の 3 年間、ブラジル人、中国人、フィリピン人への生活実態聞き取り調査を行った。この調査の中で、外国人の「日本人ともっとたくさん交流したい」との思いが分かった。そこで、平成 27 年度から「外国人ママのクッキング教室」を開始。

#### 2) 平成 29 年度の実績

6 月に国際交流プロジェクト「交流のつどい」で、100 人以上の外国人・丹波市民との交流イベントを実施した。外国人ママのクッキング教室では、フィリピンママのクッキング教室を実施。3 月にはベトナムママのクッキング教室を実施する予定である。

### 2 市民の防災意識を向上させる活動

#### 1) 防災教育活動へのきっかけ

平成 26 年 8 月 16・17 日に丹波市を豪雨が襲った。人的被害は死者 1 名、負傷者 4 名、床下浸水以上の住家被害 1,023 戸と大きな災害を被った。この被害を受けた後に丹波市在住の外国人の方から、災害に対する不安の声を聞き、外国人への防災教育の必要性を感じて、防災紙芝居を思いついた。

#### 2) 防災紙芝居（地震編）の作成

- ①日本語のセリフを簡単にして、同じ言葉を 2 回繰り返すようにする。
- ②コンピュータの翻訳機能を使って、フィリピン語、中国語に訳する。
- ③ネイティブの方々に点検してもらう。

#### 3) 実施実績

6 月に国際交流プロジェクト「交流のつどい」では防災紙芝居（地震編）を披露した。7 月には兵庫地理学会で防災紙芝居を発表し、大学の先生からも高い評価を得た。部顧問がフィリピンの小学校で実施し、外国でも紙芝居が防災教育に役立つことを証明した。

### 3 柏原市街地の観光バリアフリーマップの作成

日本赤十字社兵庫県支部から紹介してもらった、バリアフリーマップ京都の山本さんの指導のもとに、観光バリアフリーマップ作りの第一歩を踏み出した。本校のある柏原町は、史跡が町の中心にまとまってあり、交通量も少ないので、障がい者の街歩きには最適な環境である。この柏原町中心部の観光バリアフリーマップを作り、障がい者の街歩き観光を促していこうと考えている。11 月に最初の研修を山本さんから受け、フィールドワークの視点を教わった。冬の間は調査は休止し、3 月から再開、6 月のマップ完成を目指している。

平成30年1月28日(日)

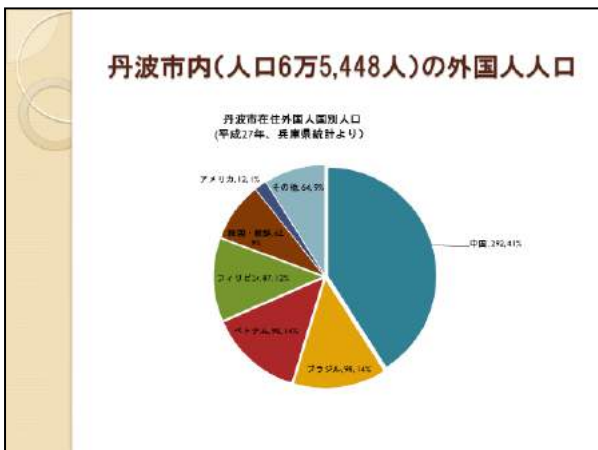
平成29年度青少年赤十字研究発表会

丹波市在住のニューカマー外国人の日本人社会への親近感・信頼感を高める活動  
&  
市民の防災意識を向上させる活動  
&  
柏原市街地の観光バリアフリーマップの作成

兵庫県立柏原高等学校  
ボランティア部（インターアクト部）

第1部

丹波市在住のニューカマー外国人の日本人社会への親近感・信頼感を高める活動



- 丹波市在住外国人とインターアクトクラブとの活動**
- 日本語教室「こんにちは」：外国人小学生学習支援
  - 平成24年度 丹波在住の外国人へのアンケート調査
    - ・31名へのアンケート
  - 平成25年度 ブラジル人への聞き取り調査
  - 平成26年度 中国人への聞き取り調査
  - 平成27年度 フィリピン人への聞き取り調査  
外国人ママのクッキング教室開始
  - 平成28年度 外国人ママのクッキング教室  
外国人向け防災紙芝居（地震編）

- アンケート・聞き取り調査より外国人が望んでいること**
- 日本人ともっとたくさん交流したい
  - 日本語をもっと勉強したい

- 平成29年度の取り組み**
- 国際交流プロジェクト  
「交流のつどい」（6月）
  - \*100人以上の外国人・丹波市民の前で防災紙芝居（地震編）披露
    - ・丹波市国際交流協会
    - ・柏原ロータリークラブ
  - 外国人ママのクッキング教室
  - フィリピンママのクッキング教室（6月）
    - ・ベトナム人ママのクッキング教室（2月）



防災紙芝居を披露、緊張しました



7カ国語で実施しました



フィリピンママのクッキング教室



講師は西村ベラさんです



おいしいハロハロができあがり



フィリピン文化の学びました



フィリピンの人は英語が得意



スペインの影響を受けたパレード



### 交流を通してのわかったこと

- 学校からの連絡プリントが漢字で読めない。  
せめて、振り仮名をつけてほしい。
- 料理を教わったり交流した国への関心が高まり、行ってみたい。

## 第2部

### 市民の防災意識を向上させる活動

### 防災教育活動へのきっかけ 市島豪雨災害

平成26年8月16日  
～17日

人的被害  
負傷者 4名  
死者 1名



### 住家被害戸数

	住家（戸）						計
	全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊			
				一部損壊	床上浸水	床下浸水	
柏原						9	9
氷上			2		35	307	344
青垣						14	14
春日			1	1	22	100	124
山南						3	3
市島	18	9	39		112	351	529
計	18	9	42	1	169	784	1,023

### 丹波市在住外国人は災害に不安を覚えている

- 警報と注意報の違いがわからない
- テロップは日本語なので読めない
- 避難場所もわからない

この人たちへの防災教育の必要性を感じて、防災紙芝居を思いつく

### 外国人用の地震防災紙芝居

- まず、日本語のセリフを簡単にして、同じ言葉を2回繰り返すようにする。
- コンピュータの翻訳機能を使って、フィリピン語、中国語に訳する。
- 最後に、ネイティブの方々に点検してもらう。

### フィリピン人ママの指導で紙芝居を翻訳







神戸大学・兵庫地理学会で発表

教育系の大学の先生には、大好評

当然、紙芝居も披露しました

防災紙芝居フィリピンへ

パナイ島の小学校で実演

紙芝居はフィリピンにはありません



振返：クリス先生・采女先生と



クリス先生、早速、教材化へ



JICAフィリピン事務所で、振返



紙芝居の防災教育への有効性を確認



クリス先生が、防災紙芝居を実施



小学生は、机の下へ避難！！



JICAフィリピン事務所で、  
成果報告会





## 防災紙芝居の実施の今後の予定

- 地震の防災紙芝居を実施しているが、豪雨への防災紙芝居の実施を考える
- 幼稚園・小学校での定期的な実施へ（文化発表会の代休日に実施）
- 篠山学園（介護士養成専門学校）に4月からベトナム人35名が入学予定  
\*ベトナム語での防災紙芝居実施へ

## 第3部

### 柏原市街地の観光バリアフリーマップの作成

## バリアフリーマップ作りへ



## ハンディキャップを感じさせない山本さん



## フィールド調査の練習1 柏原高校前のお菓子屋さん前



## フィールド調査の練習2 長屋門前で



## バリアフリーマップ完成へ

- 丹波市は、今、厳寒のまっただ中  
作業は、休止中です。
- 3月下旬から調査。
- 6月、完成へ。
- がんばるぞ!!!

ご清聴ありがとうございました

## 青少年赤十字研究推進校設置要項

### 1 趣旨

青少年赤十字加盟校（以下「加盟校」という）における青少年赤十字活動の充実振興を資するとともに、未加盟校の啓発をはかり、もって青少年赤十字の充実振興を期するため、青少年赤十字研究推進校（以下「研究推進校」という）を設け、研究を委嘱する。

### 2 研究主題

研究主題は、次の活動に関するものとする。

- (1) 赤十字募金に関する活動
- (2) 防災に関する活動
- (3) 青少年赤十字の普及、育成に関する活動
- (4) 献血推進に関する活動
- (5) 奉仕活動に関する活動
- (6) 社会福祉施設における活動
- (7) 老人福祉の向上のための活動
- (8) 障がい者福祉の向上のための活動

### 3 研究推進校の指定及び決定

- (1) 研究推進校は、日本赤十字社兵庫県支部（以下「支部」という）が当該支部管内青少年赤十字加盟の小学校、中学校、高等学校から計6校を指定する。
- (2) 研究推進校の指定期間は1年間とし、原則として最長3年まで継続して申請することができる。
- (3) 研究推進校の指定については、兵庫県青少年赤十字協議会総会において決定する。

### 4 研究推進校の指定の申請

支部は毎年研究推進校の公募を行い、指定を受けようとする加盟校は、「青少年赤十字研究推進校指定申請書」（様式第1号）により4月末日（厳守）までに支部に申請する。

### 5 研究推進校の助成金の申請

- (1) 研究推進校の指定を受けた加盟校は、指定後速やかに「青少年赤十字研究推進校助成金交付申請書」（様式第2号）に、「助成金収支予算書」（様式第3号）を添えて、支部まで申請する。
- (2) 支部は研究推進校の研究等に必要な経費（別表参照）について、年度あたり8万円を上限として助成する。

### 6 研究発表及び報告

研究推進校は、「青少年赤十字研究推進校活動状況報告書」（様式第4号）及び「助成金収支報告書」（様式第5号）を、翌年度4月末日（厳守）までに支部に提出する。期日までに提出されない場合は、翌年度の申請を受け付けない。

また、活動状況等の報告を支部が開催する「兵庫県青少年赤十字研究会」において、研究発表を行う。

### 付 則

本要項は、昭和57年4月1日制定実施する。

本要項は、平成元年4月1日一部改正実施する。

本要項は、平成18年12月20日一部改正実施する。

本要項は、平成19年4月1日一部改正実施する。

本要項は、平成20年11月1日一部改正実施する。

本要項は、平成22年1月5日一部改正実施する。

本要項は、平成26年12月20日一部改正し、平成27年4月1日から実施する。

本要項は、平成27年12月15日一部改正し、平成28年4月1日から実施する。

## 青少年赤十字研究推進校一覧

日本赤十字社兵庫県支部

年 度	学 校 名	研 究 主 題
S 5 7～5 9	伊丹市立昆陽里小学校	気づき・考え・実行する子どもの育成をめざして
S 5 8～6 0	但東町立但東中学校	たくましいからだと豊かなころをもち地域・社会に 貢献できる生徒の育成をめざして －赤十字の精神にもとづいて、自ら気づき・考え・実行 する生徒づくり－
S 5 9～6 1	兵庫県立佐用高等学校	赤十字の精神を生かした特別活動の活性化
S 6 1	村岡町立村岡中学校	共に生きる心を深め、実践する生徒を育成する
S 6 0～6 2	兵庫県立神戸養護学校	障害を持つ児童の実態に即した効果的な指導のあり方 －共に生きるために青少年赤十字活動を活用して－
S 6 1～6 3	揖保川町立河内小学校	人権感覚を磨き、自ら考え、判断し、自己表現のできる 子の育成
S 6 3	伊丹市立南小学校	共に生きる心を深め、日々実践する児童の育成をめざ して
S 6 2～ H元	宝塚市立中山五月台中学校	自ら気づき・考え・実行できる生徒会づくり －青少年赤十字の活動から広く世界にも目を向ける生 徒を育てるために－
S 6 3～H 2	兵庫県立姫路飾西高等学校	人間としての望ましい在り方・生き方を特別活動を通 して実践する －青少年赤十字活動を活用して－
H元～ 2	赤穂市立赤穂中学校	人間性豊かな子どもの育成 －学校園、家族、地域が連携し、子どもを生かし高める 生徒指導－ －子どもを生かし高める青少年赤十字のあり方を求め て－
H 2～ 3	尼崎市立博愛幼稚園	独り立ちと高めあいのできる学級経営 －青少年赤十字活動を活用して－
H 2～ 3	南淡町立北阿万小学校	美しい心を育てる －青少年赤十字の基本的な考え方をまとめる－

年 度	学 校 名	研 究 主 題
H 5～6	兵庫県立御影高等学校	共生社会を実現するために高等学校の取り組める具体的な活動を探る
H 8～9	但東町立合橋小学校	生命の大切さと思いやりの心を育てる福祉教育の推進 －青少年赤十字活動を活用して－
H11～12	兵庫県立 姫路工業大学附属高等学校	異文化理解・海外理解を深めるための具体的な活動を探る －青少年赤十字の精神に学びながら－
H14～16	三日月町立三日月中学校	平和への願いを込めて
H14～16	兵庫県立芦屋南高等学校	高校生の取り組む国際救援活動
H16～18	神戸市立神戸西高等学校	社会に貢献できる生徒の育成 障害のある方と良好な関係を築くために何が必要かを 自ら気づき・考え・行動できる生徒の育成
H17～18	篠山市立城南小学校	身のまわりに関心を持ち、主体的に判断し行動する児童をめざして
H17～18	三木市立三木東中学校	豊かな感性を育み地域に根ざす森の環境教育 － J R C活動を環境教育に生かして－ くふるさとの良さを発見しよう>
H17～18	佐用町立佐用中学校	「人権・平和・福祉」をテーマに、地域をはじめ、広く世界にも目を向け、多様な文化的背景を持つ人々と共に生きる心を培い主体的に地域や社会に貢献していこうとする意欲や実践力を培う
H18～19	たつの市立小宅小学校	明るく仲間を大切にし、共に伸びていく子の育成 －自己を生かし自主的・実践的態度を育てる
H18～19	神戸市立神戸西高等学校	社会に貢献できる生徒の育成 障害のある方と良好な関係を築くために何が必要かを 自ら気づき・考え・行動できる生徒の育成
H19～20	西脇市立西脇小学校	人間性豊かに輝く にしわきっ子の育成 ～共に生きていく喜びを感じる活動をしよう～
H19～20	篠山市立城南小学校	身のまわりに関心を持ち、主体的に判断し行動する児童をめざして
H19～20	兵庫県立多可高等学校	社会福祉施設における活動

年 度	学 校 名	研 究 主 題
H 2 1	神戸市立太山寺小学校	めあてを持ち、たくましく生きる子を育てる。
H 2 1	篠山市立城南小学校	身のまわりに関心を持ち、主体的に判断し行動する児童をめざして
H 2 1	市川町立瀬加小学校	命を大切にし、思いやりを持ち、みんなとともに生きる児童の育成 ～かけがえのない命、自分大好き、友だち大好き！～
H 2 1	上郡町立山野里小学校	赤十字の精神に基づき、日常の生活の中で共に生きる心を深め、日々実践する児童を育成する。
H 2 2	篠山市立城南小学校	身のまわりに関心を持ち、主体的に判断し行動する児童をめざして
H 2 2	市川町立瀬加小学校	命を大切にし、思いやりを持ち、みんなとともに生きる児童の育成 － 青少年赤十字の普及、育成と国際的な視野に立つ奉仕活動の実践－
H 2 2	市川町立鶴居小学校	自分の大切さとともに、他の人の大切さを認めることのできる思いやりのある子の育成をめざして
H 2 2	上郡町立山野里小学校	平成 2 2 年度上郡町立山野里小学校、上郡町立船坂小学校、上郡町立梨ヶ原小学校の 3 校が統合する。これまで、山野里小学校のみが青少年赤十字活動に取り組んできたが、統合を契機として新たに赤十字の精神に基づき、日常の生活の中で共に生きる心を深め、日々実践する児童の育成を図る。
H 2 2	佐用町立幕山小学校	命を大切にし、思いやりを持って友だちと共に生きる ～自分を大切に、友だちを大切に～
H 2 2	兵庫県立舞子高等学校	災害後の中・長期支援と心のケア支援において高校生がどのような活動を行えるか、どのように貢献できるかを探る。あわせて、支援の視点に立った防災教育の内容と方法を確立する。
H 2 3	篠山市立城南小学校	身のまわりに関心を持ち、主体的に判断し行動する児童をめざして

年 度	学 校 名	研 究 主 題
H 2 3	西脇市立西脇小学校	共に生きていく喜びを感じる活動を -好きです！にしわき わたしのふるさと-
H 2 3	市川町立瀬加小学校	命を大切にし、思いやりを持ち、みんなとともに生きる児童の育成 ～青少年赤十字の普及、育成と交流活動をとおした国際的文化意識の高揚～
H 2 3	市川町立鶴居小学校	自分の大切さとともに、他の人の大切さを認めることのできる思いやりのある子の育成をめざして。
H 2 3	上郡町立山野里小学校	統合2年目を踏まえ新たに赤十字の精神に基づき、日常生活の中で共に生きる心を深め、日々実践する児童の育成を図る。
H 2 3	佐用町立幕山小学校	命を大切にし、思いやりを持って友だちと共に生きる -自分を大切に、友だちを大切に-
H 2 3	播磨町立蓮池小学校	赤十字の精神を生かした健康教育の推進
H 2 3	姫路市立神南中学校	自分らしく輝ける生き方を求めて -交流活動を通じて-
H 2 3	兵庫県立舞子高等学校	中長期的支援の在り方と高校生が実践できる役割の追求・防災教育への反映
H 2 4	神戸市立春日野小学校	チャレンジ とともに生きる社会をめざして
H 2 4	西脇市立西脇小学校	「人間性豊かに輝くにしわきっ子の育成」 -平和や福祉に貢献する活動を自ら考え、実践しよう-
H 2 4	西脇市立桜丘小学校	「共生と思いやりの心の育成」
H 2 4	篠山市立城南小学校	身のまわりに関心を持ち、主体的に判断し、行動する児童をめざして
H 2 4	播磨町立蓮池小学校	赤十字の精神を生かした健康教育の推進
H 2 4	市川町立鶴居小学校	自分の大切さとともに、他の人の大切さを認めることのできる思いやりのある子の育成をめざして。
H 2 4	佐用町立幕山小学校	命を大切にし、互いを思いやり、共に生きる心を育てる ～自分が好き、友達が好き～
H 2 4	兵庫県立舞子高等学校	「中・長期的支援の在り方の研究と高校生が実践できる役割の追及・防災教育への反映」

年 度	学 校 名	研 究 主 題
H 2 5	神戸市立駒ヶ林小学校	勇気 心をつないで ～共に生きる社会を目指して～
H 2 5	西脇市立桜丘小学校	共生と思いやりの心の育成
H 2 5	猪名川町立楊津小学校	みんなで幸せになろう！笑顔で幸せを運ぼう！
H 2 5	播磨町立蓮池小学校	いのちの大切さを学ぶ環境体験学習
H 2 5	市川町立甘地小学校	あなたも私も大切に思う心を育て、体験活動の充実を図る ～青少年赤十字の普及、育成と国際的視野に立つ奉仕活動 の実践～
H 2 5	市川町立川辺小学校	自分も人も大切にしながら自ら考え行動できる児童の育 成
H 2 5	市川町立鶴居小学校	自分の大切さとともに、他の人の大切さを認めることので きる思いやりのある子の育成をめざして
H 2 5	西脇市立西脇東中学校	学び鍛える心豊かな生徒の育成
H 2 5	兵庫県立舞子高等学校	特別支援学校との防災交流
H 2 5	兵庫県立柏原高等学校	丹波市在住のニューカマー外国人の日本社会への親近感・ 信頼感を高める活動
H 2 6	神戸市立駒ヶ林小学校	勇気 心をつないで ～共に生きる社会を目指して～
H 2 6	西脇市立桜丘小学校	共生と思いやりの心の育成
H 2 6	宝塚市立山手台小学校	元気・やる気・優しさいっぱい为学校・地域づくり
H 2 6	篠山市立城南小学校	「気づき・考え・実行する」主体的に判断し、行動する児 童をめざして
H 2 6	猪名川町立楊津小学校	命をみつめよう、命をつなげよう、命にありがとう。(身 近な命から学び、私たちの命とともに育み、世界中の命へ つなげる取り組み)
H 2 6	市川町立甘地小学校	あなたも私も大切に思う心を育て、体験活動の充実を図る ～青少年赤十字の普及、育成と国際的視野に立つ奉仕活動 の実践～

年 度	学 校 名	研 究 主 題
H 2 6	市川町立川辺小学校	様々な人々とのふれあいを通して、自分も人も大切にできる思いやりのある児童の育成
H 2 6	市川町立瀬加小学校	大切な命 つながる命 ～心も体も大切にしよう～
H 2 6	兵庫県立舞子高等学校	特別支援学校との防災交流
H 2 6	兵庫県立柏原高等学校	丹波市在住のニューカマー外国人の日本社会への親近感・信頼感を高める活動
H 2 7	神戸市立駒ヶ林小学校	勇気 心をつないで ～共に生きる社会を目指して～
H 2 7	宝塚市立山手台小学校	元気・やる気・優しさいっぱいの学校・地域づくり
H 2 7	篠山市立城南小学校	「気づき・考え・実行する」主体的に判断し、行動する児童をめざして
H 2 7	猪名川町立楊津小学校	命をみつめよう 命をつなげよう 命にありがとう(身近な命から学び、私たちの命とともに育み、まわりの命へつなげる取り組み)
H 2 7	市川町立甘地小学校	健康福祉社会の実現に向けて、子どもたちが自ら考え体験できる活動を通して、国際的視野に立った実践力を養う。～青少年赤十字の普及、育成と国際的視野に立つ奉仕活動の実践～
H 2 7	西脇市立黒田庄中学校	校訓「健やかでうるわしく 和やかでよく働く 自力でなしとげる」を目標とした生徒の育成
H 2 7	猪名川町立六瀬中学校	「みつめよう命、つなげよう絆、救おう地球」 ～命の営みのつながりから、命を支え合う社会を創造する～
H 2 7	兵庫県立舞子高等学校	特別支援学校との防災交流
H 2 7	兵庫県立鳴尾高等学校	奉仕・国際理解 ～地域・世界の一員として～
H 2 7	兵庫県立柏原高等学校	丹波市在住ニューカマー外国人の自尊感情の向上と丹波市民との信頼関係の構築

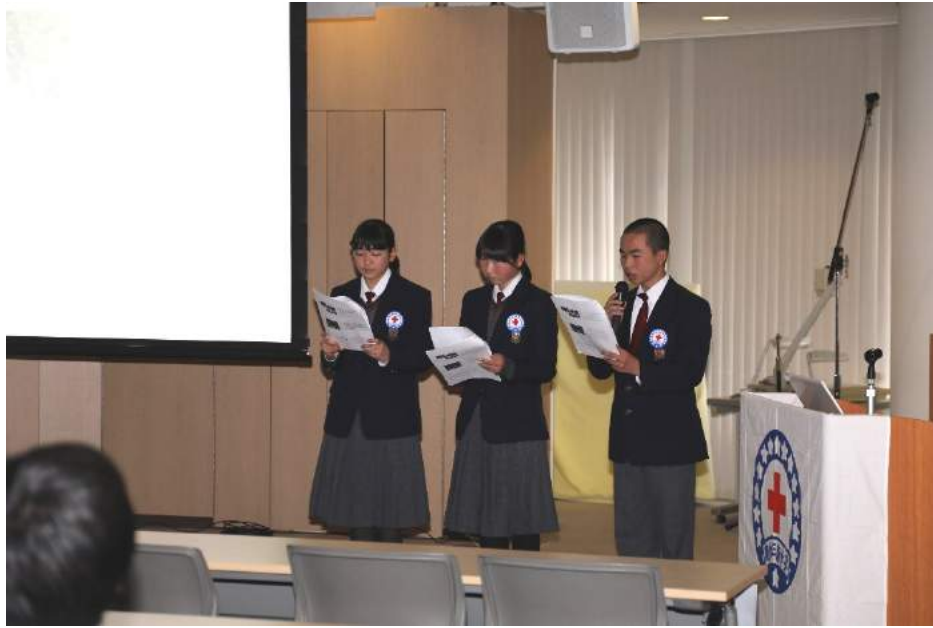


年 度	学 校 名	研 究 主 題
H 2 8	宝塚市立山手台小学校	「創造とチャレンジ」 ～様々なことにチャレンジし、より良い自分、より良い学校、より良い地域を創ろう～
H 2 8	篠山市立城南小学校	「気づき・考え・実行する」 主体的に判断し、行動する児童をめざして
H 2 8	西脇市立黒田庄中学校	「健やかでうるわしく 和やかでよく働く 自力でなしとげる」を目標とした生徒の育成
H 2 8	猪名川町立六瀬中学校	「みつめよう命、つなげよう絆、救おう地球」 ～ふるさとから学び、ふるさとに貢献し、グローバルに活躍する人材を育成する～
H 2 8	兵庫県立鳴尾高等学校	奉仕・国際理解 ～地域・世界の一員として～
H 2 8	兵庫県立柏原高等学校	「丹波市在住のニューカマー外国人の日本人社会への親近感・信頼感を高める活動」
H 2 9	芦屋市立精道小学校	阪神淡路大震災を語り継ぐ
H 2 9	宝塚市立未成小学校	学校・家庭・地域の連携を基盤にした、安心・安全、みんなに優しいまちづくり
H 2 9	西脇市立黒田庄中学校	「健やかでうるわしく 和やかでよく働く 自力で成し遂げる」生徒の育成
H 2 9	猪名川町立六瀬中学校	「共創的な対話が生み出す、つながる地域、そして、みんなの地球」～ふるさとから学び、ふるさとに貢献し、国際社会で活躍できる人材を育成する～
H 2 9	兵庫県立鳴尾高等学校	奉仕・国際理解 ～地域・世界の一員として～
H 2 9	兵庫県立柏原高等学校	①丹波市在住のニューカマー外国人の日本人社会への親近感・信頼感を高める活動 ②市民の防災意識を向上させる活動 ③柏原市街地の観光バリアフリーマップの作成

## 研究会における発表の風景











 日本赤十字社 兵庫県支部  
Japanese Red Cross Society